

オーストラリア金融政策（2021年4月）

全ての政策について現状維持を決定

2021年4月6日

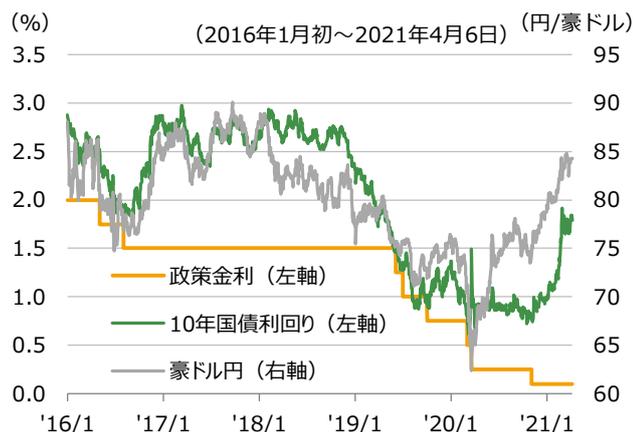
YCC（イールドカーブ・コントロール）の変更が当面の焦点に

RBA（オーストラリア準備銀行）は4月6日（現地、以下同様）、市場予想通り政策金利と3年国債利回りの誘導目標をいずれも0.1%で据え置き、ターム物資金調達ファシリティと量的緩和も現状の方針を維持すると発表しました。声明文の内容も金融市場に大きな影響を与えるものではありませんでした。

当面の焦点は、YCCの目標となる債券が2024年4月償還債から2024年11月償還債に切り替わるかどうかです。切り替われば3年を対象としたYCCが継続することを意味し、切り替わらなければYCCが2024年4月に終了する可能性が高まります。ロウRBA総裁は3月10日の講演でこの可能性に言及していましたが、RBA理事会の声明文においては今回初めてその検討をする旨が言及されています。当社では、労働市場を中心に順調な景気回復が続いていることなどを背景に、YCCの目標となる債券が2024年4月償還債から切り替わらないと想定しています。すでに市場も同様のシナリオを織り込んでいる模様で、実際に切り替わらないことが決定されたとしても、短期的な金融市場への影響は限定的とみられます。しかし、今後数年単位で見た場合には、時間の経過とともにYCCの終了とその後の利上げ開始が視野に入ってくることで、長期金利には上昇圧力がかかりやすい状況が続くと思われまます。そして、オーストラリアと日本の長期金利差が拡大することで、豪ドル円も上昇しやすい環境が続くと考えています。

仮に、当社ならびに市場の想定が外れ、YCCの目標となる債券が2024年11月償還債に切り替われば、一時的にせよ金利低下・豪ドル安要因になり得ます。したがって、このような事態を招くほど経済見通しが下振れる事象が発生するか否かが重要であり、特に新型コロナウイルスの感染が再拡大しないかどうかや、雇用維持給付金制度が3月で終了した影響が4月以降どの程度出てくるかなどに注目しています。

オーストラリアの金利と為替



※政策金利は決定日ベース
 ※10年国債利回りと豪ドル円の2021年4月6日は、日本時間14時半時点のデータ

(出所) ブルームバーグ

償還まで3年程度の国債の利回りとYCCの目標



※YCCによる3年国債利回りの誘導目標は決定日ベース
 ※国債利回りの2021年4月6日は、日本時間14時半時点のデータ

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。